

血管外科

科長 古森 公浩（教授）

6E

血管疾患の専門医が常勤し、高い専門性を誇る

血管疾患（動脈、静脈、リンパ管など）、動脈瘤や末梢動脈疾患の診断および治療（外科治療、ステントグラフト、血管内治療）を行っています。

診療体制

古森公浩教授をはじめとする教員7名のほか医員など6名により血管疾患全般の診断、診療を行っています。外来日は月、水、金曜日であり、治療日は月、火、木曜日ですが、緊急患者にも対応しています。

対象疾患

血管疾患全般が対象です。動脈疾患では、大動脈瘤（胸部、胸腹部、腹部）、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、頸動脈狭窄症や腎動脈狭窄症。静脈疾患では、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、リンパ管疾患ではリンパ浮腫などです。

得意分野

胸部、腹部大動脈瘤に対し外科手術だけではなく多数のステントグラフト内挿術を施行しています。末梢動脈閉塞症に対し病態に適したバイパス術、血管内治療を行い、また、血行再建困難例には血管新生療法を行っています。

診療実績

2011年には腹部（腸骨）大動脈瘤124例（ステントグラフト内挿術65例）、胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術31例。PAD112例（うちバイパス術26例）、静脈瘤治療37例施行。



専門外来

血管外科専門医はすべての病院に存在する科ではないのでその専門性は非常に高くなっています。当科には心臓血管外科専門医5名、脈管専門医5名、ステントグラフト指導医4名が常勤しています。

先進医療・研究

先進医療として自己骨髄細胞移植による血管新生療法を行っています。血管内膜肥厚の成因解明と遺伝子治療による制御、動脈瘤の成因の解明、ステントグラフト内挿術治療向上の工夫、炎症性血管疾患の分子生物学的研究を行っています。



移植外科

科長 木内 哲也（教授）

6W

日々進化する移植医療に対応する最善のシステム

脳死・生体肝移植を中心に進行肝臓病の治療を行います。ドナーの健康管理やその他の移植相談も受けています。

診療体制

診療情報とご本人、ご家族との面接に基づいて、移植治療の必要性・安全性・効果を評価します。各領域との連携と移植コーディネーターの支援のもとで生体・脳死肝移植治療を行い、生涯に渡る診療体制を作っています。

対象疾患

肝移植では、劇症肝炎・肝硬変・肝細胞癌・原発性胆汁性肝硬変・原発性硬化性胆管炎・進行性肝内胆汁うっ滞症・多発性嚢胞肝・胆道閉鎖症・カロリー病・先天性代謝性肝疾患・アラジール症候群・バッドキアリ症候群など。

得意分野

成人および小児の肝移植治療の技術は高く評価され、血液型不適合移植をはじめ、他施設からの相談も少なくありません。一方で、生体ドナーの身体面ばかりでなく心理・社会面に配慮したケア・システムを作っています。

診療実績

生体肝移植施設であると同時に脳死肝移植認定施設（全国22施設）であり、多彩な肝臓病に対して定期的に肝移植治療を行っています。治療成績は病状によって異なりますが、最近では1年生存率90%を超えています。



専門外来

「肝移植レシピエント術後外来」の他、「生体肝ドナー術後外来」では他施設で手術を受けられた方も受けられています。また、通常外来の他に予約制の「移植相談外来」を設け、1件2時間程度の枠で相談を受けています。

先進医療・研究

移植医療自体が先進医療であり、例えば手術の技術面に加え、移植感染症制御、移植後ワクチン、移植後ウイルス肝炎制御、肝細胞癌再発制御、移植肝臓の線維化制御、血液型不適合移植などの研究を行っています。

